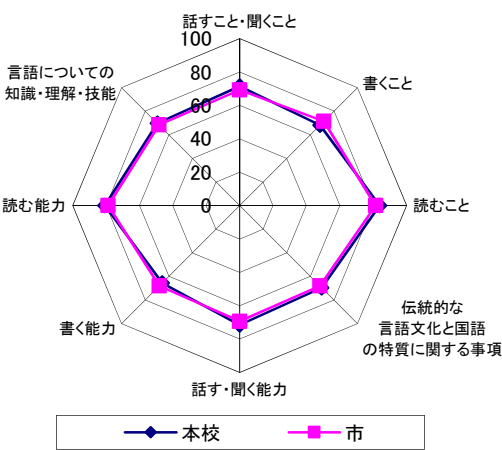


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                      | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 話すこと・聞くこと            | 71.5 | 69.3 | 73.4 |
|     | 書くこと                 | 68.1 | 71.3 | 74.6 |
|     | 読むこと                 | 83.9 | 81.5 | 81.5 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 69.6 | 68.1 | 71.6 |
|     |                      |      |      |      |
| 観点別 | 話す・聞く能力              | 71.5 | 69.3 | 73.4 |
|     | 書く能力                 | 65.6 | 68.1 | 71.7 |
|     | 読む能力                 | 80.6 | 78.8 | 79.0 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 69.7 | 68.4 | 72.0 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

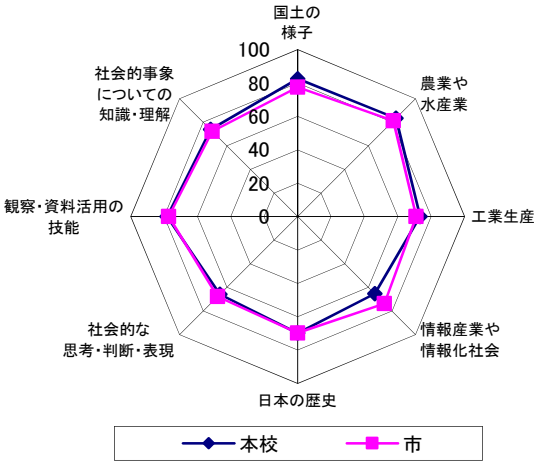
| 領域                   | 本年度の状況                                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                       |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ・本校の平均正答率は71.5%で市の平均を2.2ポイント上回っている。<br>○「司会者の役割を理解して計画的に話し合おうとすることができる」をねらいとした問題では95.2%という高い正答率で、市の平均を3ポイント近く上回った。<br>●「話し手の意図を考えながら話し合いの内容をまとめることができる」というねらいの問題では市の平均を上回りはしたが、35.5%の正答率だった。 | ・話し合いの観点に沿って意見を聞くことはおおむね身に付いているが意見の提案という分野が弱く、筋道の通った提案の仕方を学習させる必要がある。<br>・話のテーマに対してグループで話し合う場を継続して設けるとともに、議題や課題に沿った意見を書かせる活動を取り入れ、論理的な思考を育みたい。 |
| 書くこと                 | ・本校の平均正答率は68.1%で市の平均を3.2ポイント下回っている。<br>○自分の意見を明らかにして文章を書く設問では市の平均を下回りはしたものの87.1%の正答率だった。<br>●グラフから読み取ったことを書く設問における正答率は51.6%だった。                                                              | ・国語の授業だけでなく他教科の学習とも関連を図りながら、文章以外の資料を適切に読み取るスキルを身に付けさせるとともに、資料を活用し適切に意見を文章化する力を育むために、事実に対して意見を書く学習を繰り返す。                                        |
| 読むこと                 | ・本校の平均正答率は83.9%で市の平均を2.4ポイント上回っている。<br>○物語の内容を読み取る設問では4問中3問が市の平均正答率を上回っており、内2問の正答率は90%と高い。<br>●説明の内容を的確に読み取ることに限っては3問中2問が市の平均を上回っているが90%を超えたものは無く市の平均を下回ったものは70%に達しなかった。                     | ・日頃から新聞記事や辞典、図書などを授業の中で活用し、必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。<br>・説明的文章では、指示語や接続語の役割に目をつけさせ、文の主旨や内容を理解させるように指導する。                         |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ・本校の平均正答率は69.6%で市の平均を1.5ポイント上回っている。<br>○第6学年の配当漢字を読む問題の正答率は市や県のそれとほぼ同じぐらいであった。<br>○「三字熟語の構成」の理解度は95%を超えている。<br>●「謙譲語」「尊敬語」といった敬語の理解度が低く、市や県の平均を下回っている。                                       | ・前学年までの配当漢字の習熟をねらい、辞書の活用を習熟と合わせて行うことにより、言葉への理解を深められるようにする。<br>・「謙譲語」と「尊敬語」の違いについて復習し、主語によってどちらを用いるべきであるか理解させるとともに、繰り返し学習することによって定着を図りたい。       |
|                      |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                |
|                      |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                  | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 国土の様子            | 82.6 | 77.5 | 74.0 |
|     | 農業や水産業           | 83.3 | 81.1 | 73.7 |
|     | 工業生産             | 73.4 | 71.1 | 73.5 |
|     | 情報産業や情報化社会       | 65.3 | 73.7 | 63.2 |
|     | 日本の歴史            | 69.8 | 69.7 | 73.5 |
| 観点別 | 社会的な思考・判断・表現     | 65.8 | 67.7 | 63.1 |
|     | 観察・資料活用 of 技能    | 78.2 | 77.3 | 75.5 |
|     | 社会的な事象についての知識・理解 | 73.8 | 72.2 | 73.1 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

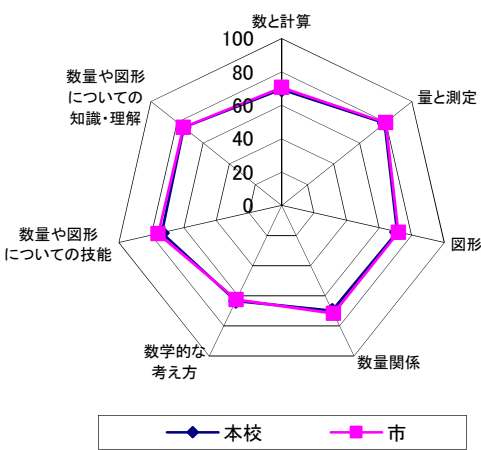
| 領域         | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                            |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国土の様子      | ・平均正答率は82.6%で市の平均を5ポイント程上回っている。<br>○日本の周囲の国の国旗に関する理解度は市の平均を11ポイント程上回っている。<br>●森林を守るための間伐についての理解が市の平均を若干下回っている。                                                                                                      | ・国内の地理についての理解を深めるため、白地図等を活用して定着を図る。<br>・いろいろな国への関心を深め、地図上での国の場所や大陸などの名称について、視覚的資料を取り入れるなど、継続して学習できる環境を与えたい。                         |
| 農業や水産業     | ・平均正答率は83.3%で市の平均を2ポイント程上回っている。<br>○米の生産が盛んな地域について資料を読み取る問題の正答率は95.2%と高く、市や県の平均を上回っている。また、日本の食糧自給率について資料を読み取る問題でも正答率93.5%と市の平均を4.6ポイント上回った。<br>●日本の食糧生産が抱える課題について資料をもとに考える問題では、市の平均を僅かに上回りはしたものの正答率は59.7%で高いとは言えない。 | ・日本がなぜ食糧確保に課題を抱えているのかを、地理的な観点から考えさせる。<br>・知識的な観点は充分定着していても、そこから自分の考えを見出すことには慣れていない。資料から読み取った上で、自分の考えを持つような機会を意識して設定したい。             |
| 工業生産       | ・平均正答率は73.4%と、市の平均を2.3ポイント上回っている。<br>○化学工業の製品についての理解は75.8%で市の平均を7.9ポイント上回っている。<br>●工業地帯・工業地域の立地について資料を読み取り考える問題の正答率が市の平均を3.2ポイント下回った。                                                                               | ・日常生活と密着して考える機会を与えたり、日本の工業生産の変化にも対応できる柔軟な考えがもてるよう、話し合いの機会を設けたりする。<br>・国内の地理と工業地帯・工業地域を重ね合わせて考えられるよう、地図帳・白地図等、複数の資料を活用して考える習慣化を図りたい。 |
| 情報産業や情報化社会 | ・平均正答率は65.3%で、市の平均を8.4ポイント下回っている。<br>●身の回りのメディアに関する理解、情報ネットワークの利便性について資料を読み取り考える問題、ともに正答率が市の平均を下回った。                                                                                                                | ・情報の伝え方とメディアとの関連に触れ、興味関心をもたせた上で、種類について学習させるとともに、情報化社会の有益性と危険性を十分理解できるようにする。                                                         |
| 日本の歴史      | ・平均正答率は69.8%で、市の平均とほぼ同じである。<br>○鎌倉時代、室町時代に関する問題は全て市平均を10ポイント前後上回っている。<br>●大和朝廷による国土の統一の様子について、資料をもとに考えて表現する問題の正答率が19.4%と非常に低い。                                                                                      | ・時代ごとに学習した内容を比較したり関連付けたりしながら、歴史について多面的な見方ができるような学習を工夫する。<br>・時代や歴史上の人物への興味・関心によって、理解度にも差がみられるので、興味・関心がもてるような指導や学習環境づくりを工夫する。        |
|            |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                     |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と計算            | 69.6 | 70.8 | 65.9 |
|     | 量と測定            | 79.0 | 79.9 | 77.0 |
|     | 図形              | 71.0 | 71.8 | 74.6 |
|     | 数量関係            | 69.9 | 71.7 | 73.4 |
|     |                 |      |      |      |
| 観点別 | 数学的な考え方         | 63.3 | 62.5 | 59.4 |
|     | 数量や図形についての技能    | 73.5 | 75.8 | 73.3 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 75.0 | 75.1 | 76.3 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

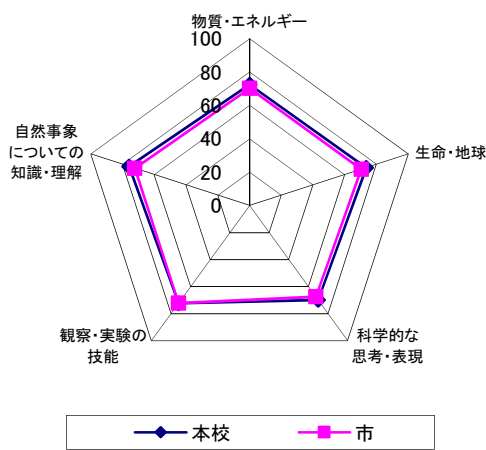
| 領域   | 本年度の状況                                                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算 | ・本校の平均正答率は69.6%と市の平均を1.2ポイント下回っている。<br>○分数の除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、正答率が市の平均を5ポイント近く上回った。また、問題の場面を理解し、式で表しているものを選ぶ問題でも正答率が市の平均を11.7ポイント上回った。<br>●小数の乗法と除法の正答率は市の平均を下回り、特に乗法の正答率は53.3%と低い。 | ・小数の四則計算について、計算の能力を伸ばせるよう反復練習をさせるとともに、授業や家庭学習で習熟する機会を増やす。<br>・文章題を読んで立式する際には数直線を活用し、何を求めようとしている計算なのかを明確にした上で計算に取り組ませる指導を継続していく。 |
| 量と測定 | ・本校の平均正答率は79.0%で市の平均を僅かに下回っている。<br>○面積・体積の分野の正答率は75%～80%前後で、おおむね理解できていると言える。<br>●連続量の平均を求める正答率は市のそれを9.2ポイント下回った。                                                                     | ・平均・割合・単位量という学習において、個別学習を十分に行い、定着させる。<br>・多様な問題に取り組ませ、何を求めるのか線を引かせたり図に表したりして思考力を育てていく。                                          |
| 図形   | ・本校の平均正答率は71.0%で市の平均を僅かに下回っている。<br>○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点はどれかを問う設問では正答率は88.7%と高く、市の平均を3ポイント近く上回った。<br>●五角形の内角の和を求める問題の正答率が41.9%と低く、市の平均を7.3ポイント下回った。                                 | ・三角形や四角形の内角の和について復習し、続いて多角形の内角の和を求める学習をすることにより、定着を図る。<br>・授業に図形を構成したり分解したりしながら操作する活動を多く取り入れ、実感を伴った理解に結び付けられるようにする。              |
| 数量関係 | ・本校の平均正答率は69.9%と市の平均を1.8ポイント下回っている。<br>○比例の関係をxとyを使って式に表す正答率は市の平均を僅かに下回りはしたものの、88.7%と高めである。<br>●もとにする量が同じである場合の割合と比べられる量の関係を具体的に説明する問題の正答率が33.9%である。                                 | ・数直線を利用して、割合・比べられる量・もとにする量の関係を十分に理解できるようにする。<br>・2つの数量の関係を求める学習では、問題場面をイメージさせたり図に表したりさせて、関係を見つけれられるようにしていく。                     |
|      |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                 |
|      |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                 |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 物質・エネルギー       | 72.5 | 70.3 | 69.0 |
|     | 生命・地球          | 73.5 | 70.4 | 70.2 |
|     |                |      |      |      |
|     |                |      |      |      |
| 観点別 | 科学的な思考・表現      | 69.8 | 67.5 | 66.4 |
|     | 観察・実験の技能       | 72.4 | 72.3 | 68.9 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 75.9 | 72.3 | 71.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

| 領域       | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                    |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <p>・本校の平均正答率は72.5%で市の平均を2.2ポイント上回っている。</p> <p>○ふりこのはたらきに関する問題では、3問中2問が市の平均を上回っており、その内1問の正答率は90%を超えている。</p> <p>○物のとけ方に関する問題では、全ての設問において市の平均を5～9ポイント上回っており、定着がみとれる。</p> <p>○物の燃え方に関する問題では3問中2問が市の平均を上回り、僅かに下回ったものも87.1%という低くはない正答率である。</p> <p>●水溶液の性質に関する問題ではリトマス紙の色の変化から液性を指摘する設問で、僅かながら市の平均を下回った。</p> | <p>・学習した内容を日常生活の物質に置き換えたり、具体的な出来事との関連を考えさせたりして、事象の仕組みや関係を考えるようにする力を育成していく。</p> <p>・今後も児童が興味をもてるような授業の展開を図るとともに、課題に対する予想、実験、結果、考察というそれぞれの活動で主体的に考えをもてるよう、言語活動を取り入れながら、科学的思考を養っていく。</p>       |
| 生命・地球    | <p>・本校の平均正答率は73.5%で市の平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○「植物とかんきょう」の問題では、全ての設問において市や県の平均を上回っており、定着が図れていることが伺える。</p> <p>○月と太陽に関する問題では、太陽にだけ見られる特徴の理解度が大変高い。</p> <p>●「植物の発芽と成長」「植物のつくりとはたらき」では、実験の条件設定に関する問題の正答率が低く、何を調べるための実験であるかの理解が十分でなかった。</p>                                                                | <p>・「植物のつくりとはたらき」において、植物が取り入れた水のゆくえに関する知識を十分身に付けられるよう、デジタル教材等を活用し、理解を深めさせたい。</p> <p>・授業において、ミニテストを行いながら学習内容を確認し、基本的な知識の定着を図っていくと同時に、自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力の育成に努める。</p> |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                             |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                             |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                             |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                             |

## 宇都宮市立昭和小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組        | 取組の具体的な内容                                                                 | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 振り返りの充実       | 授業において認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童が自らのよさへの自覚を深められるようにする。 | 「振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答が、4年生は77%、5年生は77.3%と高くなっているが、話し合いを通じて考えを深めることや、自分の考えを発表することについては、5・6年生では肯定的回答が高く、さらに6年生では「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定的回答が82.3%となっており、市の平均を大きく上回っている。4年生はそれよりもやや低い。今後も、振り返り活動を継続するとともに、方法や内容の充実を図っていく。 |
| 主体的な家庭学習の習慣作り | 学校全体の学力アップ月間を設け、家庭学習の充実を含めて家庭にも啓発資料などを作成し、協力を呼びかける。                       | 「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答が、4年生は75.4%、5年生は84.1%、6年生は75.8%となっている。また、「決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答が、5年生は県・市より高く、学年が上がるごとに、徐々に意欲も高まっていると考えられるので、質や内容の充実を図っていく。                                                             |

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学年に応じて、学習した文章の構成や言葉の選択などを、自分の文章にも表すことができるよう書く活動を取り入れていく。また、学習の振り返りの時間に、キーワードや条件などを設定して書くようにしたり、児童の振り返りを紹介したりして、書く内容の充実を図る。話を聞いたり文章を読んだりする際に、考え方や聞き方の方法（比較しながら聞く、考えを友達と共有する）を意識的に指導し、自分の考えとつなげて考える機会を設けるようにする。